

コリント人への手紙第二4章18節 「目に見えないものを見る」

1A 見えている一時的なもの 8-9

1B 四方八方からの苦しみ

2B 途方に暮れる状況

3B 迫害

4B 落胆

2A 外なる人の衰え 16

3A 一時の軽い苦難 17

1B 一時のいのち

2B 永遠との比較

4A 見えるものと見えないもの 18

1B 見えるもの

1C 苦しみ

2C 一時的

2B 見えないもの

1C 見えないものを見る力

2C 永遠を見ることによる忍耐

本文

コリント人への手紙第二4章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは 3 章まで来ました。今日は、4 章を一節ずつ午後礼拝で見えていきます。今朝は、4 章の最後の 18 節に注目します。「**私たちは見えるものではなく、見えないものに目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くからです。**」

1A 見えている一時的なもの 8-9

4 章は、パウロが「**落胆することはありません**」という言葉から始まり(1 節)、「**ですから落胆しません。**」という結論で終わっています(16 節)。なぜならば、状況が落乱することに満ちていたからです。コリント第二の手紙が、パウロがアジアで受けた苦難から始めていたことを思い出してください。目に見えるものは、落胆することです。けれども、それら目に見えることは一時的であり、目に見えないことこそ永遠に続くのだ、というのが、この箇所の内容です。目に見えるものが何であったのか、8 節と 9 節で、パウロは詳しく書いています。「**8 私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。9 迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。**」

1B 四方八方からの苦しみ

初めに、「四方八方から苦しめられます」と言っています。これがパウロたちの状況でした。私たちの状況が、四方八方からの苦しみだと感じているのであれば、パウロの受けた苦しみと比べてみましょう。11章23節以降に書いています。「23 労苦したことはずっと多く、牢に入れられたこともずっと多く、むち打たれたことははるかに多く、死に直面したこともたびたびありました。」と書いています。さらに、「24 ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、25 ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度」と言っています。そして、「25 難船したことが三度、一昼夜、海上を漂ったこともあります。26 何度も旅をし、川の難、盗賊の難、同胞から受ける難、異邦人から受ける難、町での難、荒野での難、海上の難、偽兄弟による難にあい、27 労し苦しみ、たびたび眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さの中に裸でいたこともありました。」

これらが、パウロの言っている「四方八方から苦しめられます」であります。ですから、自分が四方八方の苦しみを受けていると思ったら、それでもパウロは希望を見つけていたことを思い出して、励まされてください。彼は、それでも「窮することはありません」と言っています。

2B 途方に暮れる状況

次に、「途方に暮れます」と言っています。これは、次に何をすればよいかさっぱりわからないということです。何も自分ではできない状況です。いろいろなことをしても、すべてが悪い方向に進んでいます。それで、新たに何をやる気も起らない、あるいは新たに何かをしたら、また状況が悪化することを恐れるような状態です。これらを目の前にしている方々はいらっしゃるのではないのでしょうか？しかし、彼は、「行き詰まることはありません」と言っています。

3B 迫害

そして次に言っている、目に見えることは、「迫害」です。彼は、福音を宣べ伝え始めた時から、数々の迫害に遭ってきました。ユダヤ人による迫害が最も激しく、ピリピにおいてはローマ人からの迫害もありました。エペソでは、アルテミス神殿の銀細工人でしたし、ともかくもいろいろな人から迫害されていました。

そして彼にとってつらかったのは、ユダヤ人の信者たちからの冷遇だったのではないのでしょうか？彼が異邦人に福音を伝えていることで、律法をないがしろにしている中で、メシアが宣べ伝えられていることにどうしても共感できず、パウロのことをあまりよく思っていなかったと思います。彼が、異邦人からの支援金を携えてエルサレムに来た時に、ユダヤ人のしきたりの通りに清めの儀式を行ったほうがいいと言われて、その通りに行ったら、騒動がユダヤ人の間で起こりました。神殿の敷地に、異邦人を連れ込んだと叫んだ者がいたからです。けれども、そこでユダヤ人の信者たちが、パウロを手助けしたという記録はありません。そしてパウロは、同労者たちからも見捨て

られたことがあります。自分が皇帝ネロの法廷に立っている時に、だれも支持してくれず、みな見捨ててしまったと言っています(Ⅱテモテ 4:16)。

これらが目に見えるところです。けれども、「見捨てられることはありません」とパウロはここで言っています。目に見えないところでは、見捨てられていないのです。

4B 落胆

そして最後、「倒されます」と言っています。これは、落胆するということでしょうか？落胆するようなことが押し寄せるといことでしょうか。自分の信頼している人々が離れていくような時に、落胆します。自分の友だと思っている人が、自分に反対する時に、気落ちします。けれども、それでも、滅びることはないと言っています。目に見えるところでは、もう押しつぶされているはずなのですが、目に見えないところを見ていて、それで滅びることがないのです。

2A 外なる人の衰え 16

そして、パウロは、目に見えるところでは体が衰えています。16節を見てください。「ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。」外なる人は衰えている、と言っていますね。パウロは、石打に遭い、むちを打たれ、旅における難があり、心身において深い傷を負っていたことでしょうか。彼の体に傷があることは、ガラテヤ書を見ればわかります。「私は、この身にイエスの焼き印を帯びているのですから。」と言っています(6:17)むち打たれた傷が残っていたのでしょうか。または、文字通り焼き印を押されたのかもしれませんが。そして、同じくガラテヤ書に、ガラテヤのキリスト者たちが、パウロを愛していて、自分たちの目を抉り出して彼に与えようとさえしたと言っています(4:15)。つまり、パウロは目がよく見えなかった可能性が大です。

このように、主に仕えている中で体が弱まっていて、心も弱まっていたことでしょうか。外なる人は衰えていたのです。これが目に見えるところです。しかし、目に見えないところでは、日々新たにされていたので、今見てきたように、苦しんでも窮することなく、途方に暮れても行き詰まることなく、迫害されても見捨てられることなく、そして倒されても滅びることがありませんでした。

3A 一時の軽い苦難 17

そして、目に見えていないものを見つめているので、パウロは 17 節で、こうも話しています。「私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。」

1B 一時のいのち

パウロは、これらの苦難が「一時」であるとみなしていたのです。これは、とても大切なことで、私

たちは、苦しみに遭っている時にそれがずっと続くという思いが出てしまいます。けれども、それは間違いです。イエス様は、激しい迫害を受けているスミルナの教会に対して、「十日の間、苦しみにあう。」と言われました(黙 2:10)。十日の間だけ試されるという意味です。苦しみは永続しない、ということなのです。

そもそも、私たちがこの体で、目で見ていること、これがいかに僅かであるか、聖書はしっかりと教えています。ヤコブが手紙の中で言いました、「ヤコブ 4:14 あなたがたには、明日のことは分かりません。あなたがたのいのちとは、どのようなものでしょうか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それで消えてしまう霧です。」モーセが、このように祈っています。「詩 90:4-6 まことにあなたの目には千年も昨日のように過ぎ去り夜回りのひと時ほどです。5 あなたが押し流すと人は眠りに落ちます。朝には草のように消えています。6 朝花を咲かせても移ろい夕べにはしおれて枯れています。」本当に、人の命ははかないものです。ですから、一時の苦しみなのです。

2B 永遠との比較

そしてパウロは、まるで天秤にかけるように、今の苦難と将来の栄光を秤にかけています。彼の通っている苦しみがいかに激しいものであるか、それが重いものであるかは、私たちは先ほど 11 章にある彼の体験で知りました。けれども、彼はそれを将来の栄光と比べているのです。そちらは、今の苦しみがいかに重く感じようが、はるかに、すぐれた重みをもっているのです。今が軽くなっているのです。私たちが百キロの荷物があまりにも重く思っても、それを、一トンの重しがあつて、それを秤にかけたら、一瞬のうちに百キロの荷物が持ち上がるのと同じです。

そこで聖書は、今のいのちを将来のいのちと比べるように勧めています。イエス様は言われました。「マル 8:36 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら、何の益があるでしょうか。」そうです、自分が死んだ後に、よみがえって永遠のいのちを受け継ぎます。そして、迫害を受けた時に喜びなさいとイエス様は言われました。「マタ 5:12 喜びなさい。大いに喜びなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々は同じように迫害したのです。」そしてパウロは、ロマ書でこう言いました。「8:18 今の時の苦難は、やがて私たちに啓示される栄光に比べれば、取るに足りないとは私は考えます。」

4A 見えるものと見えないもの 18

そこで今朝の本文 18 節があるのです。「**私たちは見えるものではなく、見えないものに目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くからです。**」

1B 見えるもの

1C 苦しみ

ここで、見えるものに目を留めないと書いています。見えるものを見ないということではありません

ん。例えば、今はロシアのウクライナ侵攻、また長引くコロナ禍について、見る必要があります。私たちの信仰は、現実に関心を持つことではありません。しかし、目を留めないのです。拘泥しないのです。さもないと、罪から来る世の中で押しつぶされてしまいます。

2C 一時的

そして、目に見えるものは一時的であると言っています。イエス様は、天地は過ぎ去ると言われました。今、あるものが私たちはどうしても、ずっと続くと思ってしまう。けれども、そんなことはないのです。例えば、日本の首相を含め、世界各国の首脳が、第二次世界大戦後以来の暴挙であると、ロシアを非難しています。けれども、その暴挙を見事にプーチンが行っています。戦後の秩序、つまり、武力で国の領土を侵してはならないという秩序が、あっという間に壊れてしまったのです。もしかしたら、力ですべて決まってしまう時代になってしまうかもしれません。もしそうであれば、70年そこそこで、今の秩序は崩れてしまうということです。歴史で見たら、非常に一時的です。

私たちの今の健康もずっと続くと思っています。けれども、本当に僅かな間です。歳を取っている方はこれを実感していると思います。自分の幸せも僅かです。それだけに目を留めていれば、それが失われた時は、嘆いても、取り返しがつかなくなるでしょう。けれども、将来のいのちのために、今の悲しみをこらえるのであれば、それは報いのあることなのです。

2B 見えないもの

そして、「**見えないものに目を留めます。**」とパウロは言っています。私たちは、目に見えないもの、霊的な存在があるのだということをしかりと知らないといけません。神は目に見えるもののみならず、目に見えない存在も作られました。天使たちがいます。また墮落した天使、サタンや悪霊どももいます。聖書は、これら目に見えない霊的存在が、目に見える物質の世界に同時に存在し、それでいて、時空を超えていることを知っています。例えば、ダニエルのところにいきなり、ガブリエルがやって来て、メシアのことを伝えたと思いきや、五百年後に、バプテスマのヨハネの父ザカリヤと、またマリアに訪れました。

1C 見えないものを見る力

目に見えないものを見る力が与えられていた預言者がいました。エリシャです。エリシャが、イスラエルの王に、アラム軍がどこで待ち伏せしているのを前もって伝えました。それで、王は、スパイがいるとして側近を問い詰めますが、エリシャがすべてを見ているのだ、寝室で語られていることもまでも聞いていたと言いました。それで王は、馬と戦車と大軍を、エリシャの家に送り、そこを包囲しました。エリシャの召使いが朝早く起きたら、なんとこれらが包囲しているのを見て、「ああ、ご主人様、どうしたらよいのでしょうか」と言ったら、エリシャは、「恐れるな。私たちとともにいる者は、彼あとともにいる者よりも多いのだから。」と言いました。そして若者の目を開くように主に祈りました。すると、「火の馬と戦車がエリシャを取り巻いて山に満ちていた。」とあります！（Ⅱ列 6 章）。自分

は包囲されたと思っていましたが、実は目に見えない勢力が逆に包囲していたのです。

ですから、私たちは目に見えないところに目を留めていく必要があります。信仰によって目に留めていくのです。「ヘブル 11:1 さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」

2C 永遠を見ることによる忍耐

このことが、パウロを落胆させず、苦しみの中にも耐え抜く力を与えました。目に見えないものは、永続します。そこに目を留めれば、今の苦しみを耐えることができるのです。ヘブル 11 章には、モーセがなぜエジプトを離れたのかの説明があります。「11:24-26 信仰によって、モーセは成人したときに、ファラオの娘の息子と呼ばれることを拒み、25 はかない罪の楽しみにふけるよりも、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。26 彼は、キリストのゆえに受ける辱めを、エジプトの宝にまさる大きな富と考えました。それは、与えられる報いから目を離さなかったからでした。」モーセは、エジプトの富と罪、その目に見えるものは一時的だとみなしました。そして、キリストにある報いは永遠に続くことを知っていました。そこに目を留めていたのです。また、自分がエジプトを離れることによって受ける辱めも、一時的だと分かっていたのです。

このようにして、今の苦しみを耐え抜くことができます。今の苦しみの向こうにある、永遠の神を見て、この方から来る報い、力、助けを得るのです。だから、苦しんで弱くされているのですが、なぜか、喜びがあり、強められているのです。